

昭和63年 3 月30日 第29号

東京都社会保険労務士会 会報

千代田・中央支部

事務局 〒102 東京都千代田区二番町4-2 電設工業健康保険組合
東京都社会保険労務士会 千代田・中央支部 TEL 03 (265) 0301 発行人 仲野 三郎

「厚生年金基金の現状」

“充実したしなやかな老後のために”に参加して

研修委員会

日 時 昭和63年 1 月14日 午後 3 時

場 所 電設健保会館

講 師 情報処理産業厚生年金基金

常務理事 古 川 泰 一 郎 氏



本格的な長寿社会の到来が確実に予想される今日、人口構造の高齢化がピークを迎える21世紀においても、年金制度が十分にその機能を発揮できるよう昭和61年4月1日より新年金制度がスタートしました。改正の柱となった基礎年金の導入、給付と負担の適正化等年金制度始まって以来の大改革ということで、これを機に年金に関する関心は高まってきているようです。現に私のところにも年金に関する相談がぐんと増えてきています。また厚生年金保険よりも高い拠出金を支払っても、高水準の年金を確保したいという労使の強い要請が背景となって顧問先からは最近「厚生年金基金の詳しい説明をしてほしいのだが…」という相談を受けました。今回の研修会

は私のために開催されるのだと意気揚々と参加しました。講師に情報処理産業厚生年金基金常務理事の古川氏をむかえての研修会。本音と建前の両面のギャップをのりこえての現状を貴重な資料に基づいて説明してくださいました。公的年金を補完し、ゆとりある老後への多様なニーズにこたえるものとしての基金に大きな使命がかかっています。厚生大臣に提出した「厚生年金基金の育成普及対策のあり方」の中間報告の骨子は、①基金の設立条件の弾力化、②中小企業への普及促進、③年金給付の充実、④資産運用の効率化、⑤税制面での対策、⑥福祉施設事業の充実と総合的な育成強化策となっています。昭和63年度中に立法措置を行いたいという意向があるようです。

基金に加入しているのといないのでは将来受ける年金額の格差にはおどろかされました。昭和20年ごろには50歳程度であった平均寿命

は、昭和62年には男性は75,13歳、女性は80歳に至り、今後ますます長い老後期間をむかえることになるわけです。出生率の低下と死亡率の低下によって人口構造はかつてのピラミッド型から逆ピラミッド型に移行しつつある現在“充実したしなやかな老後を送る”ために基金に課せられている責務は重要なものがあります。事業所のニーズを直接キャッチできる立場にいる我々社会保険労務士の職域の中に、基金との接点を加えて大いにビジネスチャンスを拡大すべきであると古川氏は力説されていました。

またそれに対応すべき諸能力を備えておくことが社会保険労務士の使命と自負しております。

ます。現在年金に関心が高まっているとはいえ、まだまだ若年層にあっては医療保険には強い関心を示すが、長期的な展望にたつ年金制度の理解不足も非常に目につきます。意識変革をして制度の理解を深めるべき工夫も課せられているように思います。私も近く今日の研修会の成果を持って給付設計の面において顧問先へのアドバイスの準備をしております。



(国岡社会保険労務士事務所 国岡喜久)

新春賀詞交歓会華やかに開催

厚生委員会

当支部新春賀詞交歓会が、去る1月14日に電設健保会館において、寒さ厳しきなか会員多数の参加のもとに行われました。

石塚厚生委員長が、開会を宣し、仲野支部長の力強い開会の挨拶に始まりました。

当日は、例年のとおり各行政機関より麴町、神田、京橋、日本橋の4社会保険事務所長、中央労働基準監督署長、飯田橋公共職業安定所、中央労政事務所の所長、所長代理の来賓、また全国社会保険労務士会連合会および東京都社会保険労務士会の会長、副会長と多数のご参加を得、順次ご挨拶を承りました。

各々来賓のご挨拶の後、相馬第一部会長の音頭で乾杯を行い、来賓、会員ともに各々の

テーブルに着き和気あいの雰囲気のものと美酒を飲み交わしました。

今年は、こゝ数年に無い賑いがあったようで会の途中で帰る会員もあまり見られませんでした。

宴もすすむうち、中々に古川総務委員長が来賓への御礼と当支部の発展を祈念して三三七拍子を打ちました。

その後、来賓、会員とも盛会のもと散々後後と散会しました。

賀詞交歓会が盛会裡に終わりましたのは、偏に支部事務局のご努力に寄るところが大きいと改めて感謝する次第であります。

また、この会の司会を担当しました石塚厚生委員長が、この3月をもちまして退会されることとなりました。当支部としても、また厚生委員会としても貴重な方が去られるのは大変残念ではありますが、今後のご活躍を御祈りいたします。



昭和63年度

第11回 定例支部会議

総務委員会

日 時 昭和63年 3 月25日

場 所 電設健保会館

会議事項

1. 昭和62年度事業報告について
2. 昭和62年度収入支出について
(監査報告 千賀 綾二, 手塚和男)
3. 昭和63年度事業計画(案)について



4. 昭和63年度収入支出予算(案)について
5. 支部役員の補充について
6. その他の事項について

昭和62年度事業経過報告

1. 支部会議に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	主 な 会 議 事 項
62. 3. 26 電設健保会館	1	昭和61年度事業報告について 昭和62年度事業計画案について

2. 正副支部長, 正副委員長会に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	主 な 会 議 事 項
62. 4/9 5/6 6/3 7/1 9/4 10/2 12/2 63. 1/14 3/2 3/25 電設健保会館他	10	・ 役員の担当編成について ・ 昭和62年度支部予算配分について ・ 研修会について

3. 幹事会に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	主 な 会 議 事 項
62. 5/6 9/4 12/2 63. 3/2 電設健保会館他	4	・ 昭和62年度の事業活動について ・ 支部経理中間報告について ・ 東京会の報告について

4. その他の行事に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	主 な 事 項
62. 4/1～63. 3/31 62. 7/24 9/10 9/24, 28 10/30 東京商工会議所他	6	・ 専門相談員として ・ 労働保険指導員感謝状受賞(東京労働基準局長, 中央労働基準監督署長) ・ 社会保険事務所長感謝状受賞

5. 研修会および講習会に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	概 況
62. 6/3 7/1 9/4 10/2～3 63. 1/14 3/2 電設健保会館他	6	・ 女性のトップマネジメント研究 ・ 最近の労働判から ・ 厚生年金基金の現状 ・ パネルディスカッション「ゆとり」

6. 会報に関する事項

62. 6. 30 第26号発行 62. 10. 15 第27号発行
63. 1. 15 第28号発行 63. 3. 30 第29号発行

7. 交歓会，懇親会，旅行に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	概 況
62. 7/3 9/3 10/2 12/2 63. 1/14 2/15 3/25 電設健保会館他	7	・ 関係行政機関との懇親 ・ 研修親睦旅行 ・ 新春賀詞交歓会 ・ 埼玉熊谷支部との交歓会

8. 第一部会に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	主 な 会 議 事 項
62. 4/14 6/11 7/1 9/10 10/6 11/10 63. 2/9 3/8 電設健保会館他	8	・ 新規学卒求人の事務処理について ・ 中央労働基準監督署名札の件 ・ 88' 春闘と賃金改定実務

9. 第二部会に関する事項

日 時 ・ 場 所	回数	主 な 会 議 事 項
62. 11/2 63. 3/16 電設健保会館	2	・ 運営委員会の編成について ・ 厚生年金法の改正について

10. 昭和62年度収入支出報告

収 入 の 部		支 出 の 部	
支 部 業 務 費	511,801 円	会 議 費	231,200 円
第一部会業務費	622,375 円	研 修 費	588,850 円
第二部会業務費	1,187,550 円	会 報 費	423,104 円
雑 収 入 (利息)	789 円	通 信 費	593,865 円
		印 刷 費	129,626 円
		厚 生 費	177,630 円
		渉 外 費	125,820 円
		事 務 費	52,420 円
		計	2,322,515 円
		差 引 残 高	0
合 計	2,322,515 円	合 計	2,322,515 円

昭和63年度 事業計画



第三次社会保険労務士法の改正がなされ，社労士制度の充実と社会的信用の確立がなされた。

今年度は，重点的に「事務代理権」，「勤務等社労士の位置づけ」等の万全を期するため，一層の資質向上に励むとともに，強固な団結と融和の精神を基盤として，支部活動を推進する。

1. 支部運営の基本方針

(1) 組織の強化

- ① 会員の正確な把握に努め、特に第二部会会員の確保に努力する。
- ② 支部機構と委員会の充実に努める。
- ③ 諸会議の充実に努める。

(2) 資質の向上（業務改善，法律，人事労務問題）

- ① 例会の開催
- ② 研修会の開催
- ③ 会報の発行

(3) 行政機関等関係団体への協力

2. 事業計画の具体的施策

各委員会の計画を基本として、資質の向上、業務の改善などを図るための研修会を開催するほか、会員相互の親睦を目的とした事業を実施し、和の精神の高揚に努める。さらに組織を通じて諸事項の伝達並びに意見具申のできる効率のよい支部活動を展開する。

また、部会活動については、自主的運営としそれぞれの会員に対し、有効適切な諸事業を積極的に実施する。

なお、支部行事については、年間スケジュールをたて、予め会員に周知徹底を図る。

(1) 支部会議 昭和64年 3月

(2) 正副支部長，委員長会開催予定日

63年			64年
4/13 水	7/13 水	11/9 水	1/11 水
5/11 水	9/14 水	12/7 水	2/8 水
6/8 水	10/12 水		3/8 水
			3月未定

(3) 幹事会開催予定日

年 4 回正副支部長，委員長会と同日に開催する。

63年			64年
5/11 水	9/14 水	12/7 水	3/8 水

(4) 例会の開催予定日

各部会毎に必要なに応じ開催する。

(5) 委員会の開催予定日

年 4 回程度とし，必要に応じ開催する。

(6) 研修会の開催予定日

63年		64年
6/8 水	9/14 水	1/11 水
7/13 水	10/12 水	3/8 水

(7) 会報の発行予定

年 4 回発行する。（6 月，9 月，1 月，3 月）

(8) 懇親会の開催予定

63年	10/12 水	64年	
9/14 水	～ 13 木	1/11 水	3 月未定

(9) その他の行事

- ① 東京商工会議所相談窓口 毎月開設する。
- ② 労働保険事務説明会 毎月開催する。
- ③ 算定基礎届相談コーナー 8 月に開設する。
- ④ 労働保険年度更新事務協力 5 月，6 月に実施する。

3. 昭和63年度収入支出予算

（単位：円）

科 目	収 入	支 出	予 算 残	備 考
支 部 業 務 費	511,801	511,801	0	
第一部会業務費	622,375	622,375	0	
第二部会業務費	1,187,550	1,187,550	0	
雑 収 入	1,000	0	1,000	
合 計	2,322,726	2,321,726	1,000	

4. 支部役員の補充について

幹事石塚武雄が退会されましたので，後任として沢崎昇が選任され，委員会分掌業務

は，厚生委員長田島義雄，副委員長に沢崎昇が決定しました。（敬称略）

労働保険説明会

総務委員会

毎月開催されている、労働保険新規事業所
に対する説明会も42回を数えるに至り、回を
会 場 中央労働基準監督署会議室

第40回 昭和63年1月12日（火）

講 師 中央労働基準監督署

関谷 健一 給付調査官

会 員 松井 省二、森 才一

出席事業所 14

第41回 昭和63年2月3日（水）

講 師 中央労働基準監督署

本木 広治 給付調査官

会 員 小玉 岩男、吉瀬君江

重ねる毎に成果を上げ、今後も引き続き開催
が予定されています。

出席事業所 15

第42回 昭和63年3月9日（水）

講 師 中央労働基準監督署

益子 雪江 給付調査官

会 員 恩田 和明、高島 勉

出席事業所 20

（順不同敬称略）

次回予定は、昭和63年6月7日（火）

盛会裡に終了した懇親会

厚生委員会

暖かい日が続いたかと思うと、冬に戻った
ような日がある。が、その寒さも長くはつづ
かない。空の色や日の光は、もう冬のもの
ではない。三寒四温を繰り返しつつ、間もな
く花の季節を迎えようとしている。

この季節は新年度に向けて、社労士会支部
や政連支部の当年度の事業や収支決算報告、
次年度の事業と収支予算案など、重要要件を
承認、決定する時期でもある。当支部では、
3月25日、電設健保会館に多数の会員の参加
を得て、第11回定例支部会議、第2回目の政
連定期支部大会が開催され、慎重審議の結果、
いずれも満場一致で承認、可決された。

堅苦しい会議の後は、会場も同会館4階に
移しての恒例の懇親会。参加会員56名、来賓
10名をお迎えしての懇親会は、先ず、主催者
を代表して仲野支部長、つづいて大槻政連支
部会長から、平素の協力へのお礼と新年度に
向けての力強いあいさつで開会されました。
引き続き、来賓の神田社会保険事務所長 土
谷一光氏が、四社会保険事務所長を代表して
あいさつ。つづいて、中央労働基準監督署長
村松孝一氏、飯田橋公共職業安定所長 長田
傳氏、中央労政事務所長 那須良英氏、全国

社会保険労務士会連合会専務理事 松尾弘一
氏、東京都社会保険労務士政治連盟会長 石
原健三の各氏より、それぞれの立場でのごあ
いさつがありました。

次に、司会者から、来賓の麴町社会保険事
務所長 前嶋富男氏、日本橋社会保険事務所
長 佐久間栄一氏、京橋社会保険事務所長
吉田靖邦氏を紹介、あいさつと紹介が終った
ところで、東京都社会保険労務士会会長 杉
元一郎氏のご発声で杯を挙げ、華やかに開宴
となりました。ご来賓を囲んでの立食パーテ
ィーは、各人、好みの飲みものを手に歓談、
時間とともに宴はたけなわとなり、予定時間
も大分オーバーしたところで、乗田副支部長
による中じめとなり、ご来賓を囲んですすめ
られた宴は6時過ぎにお開きとなりました。

（厚生委員長 田島 義雄）



埼玉県熊谷支部との

親睦交歓会を実施

第一部 会長

去る2月15日（月）予定された正午丁度に、埼玉県社労士会熊谷支部の寺山支部長外6名の会員が、電設健保会館に到着しました。

当支部からは仲野支部長外13名の会員が出席し、昼食をすませた後、活発な意見交換が行なわれ午後2時30分過ぎに散会しました。

寺山支部長（女性）は、今回の交歓計画を積極的に立案され、多数の資料を持参していただいたので、その順序に従って懇談をすゝめていきました。

(1) 顧客開拓の相違点について

都市部の事業所の密集した地域での顧客開拓と、点在する地方の事業所開拓とは、効率のうえで大きく相違点があるのではないかと、又、都市部の顧客開拓方法が、地方の開拓方法の参考になれば聞きたいとのことに、当支部の数名から都市部必らずしも効率はよくなく、逆に難かしくなっている旨の話がなされました。

(2) 報酬基準をどのように活用しているか

対事業所の内容によって運用していること、報酬基準通りとれるのは最初だけで、その後は値上げの難かしさがあり、苦勞していることなど話し合われました。又、寺山支部長の値上げ方法論等が話題とされ、多数の意見が出されました。

(3) 役所との付き合い方について

熊谷支部が関係役所の施設を、会合の場として使用させてもらっているとのこと等、都内中心部で会場探しに苦勞している我々には、考えさせられることがありました。

一通りのテーマ懇談ののち、寺山支部長から、来る3月19日から5月29日までの72日間開催される「'88さいたま博覧会」のコミーシャルがあり和気あいあいのうちに話がはずみ予定の時間をオーバーしてしまいました。

（相馬 誠一 記）

会員異動状況

（昭和63年2月29日現在）

	63年1月30日現在			異動（増減）			63年2月29日現在		
	開業	勤務等	計	開業	勤務等	計	開業	勤務等	計
麴町	36	137	173	0	5	5	36	142	178
神田	60	125	185	0	4	4	60	129	189
日本橋	33	120	153	0	1	1	33	121	154
京橋	40	105	145	3	△2	1	43	103	146
合計	169	487	656	3	8	11	172	495	667

「あすの政連」

東京都社会保険労務士政治連盟

千代田・中央支部

幹事長 松 林 清 雄

今年は、社労士法が制定され20周年を迎える事になりました。

政連はどうでしょう。早いもので10年余が、過ぎようとしています。政連のあゆみは、昭和52年6月3日社労士制度推進連盟を創設し、53年12月1日全国社労士制度推進連盟、54年6月28日全国社労士政治連盟と改組され、各都道府県各支部政治連盟として今日に至っています。

政連千代田・中央支部は、去る1月14日千代田・中央支部協賛で、新春賀詞交歓会を開催しました。政連の支部活動は、地方議員と結びつき、地方議員とコミュニケーションを保つ最も身近な存在であります。

新春には、政連のPRもかねて、千代田区長を初め、区議会の議員の皆様にご案内申し上げましたところ、千代田、中央両区長からは、祝電、ご祝儀等を頂きました。公務多忙の折、千代田区からは、自由民主党福地太郎

議員、社会党竹田靖子議員、中央区からは、公明党小島欽一議員、社会党富永克子議員のご臨席を賜わり盛大に催すことが出来ました事を、心からお礼申し上げます。

これも政連へのご理解と、組織強化への意欲の表れと自負しているものであります。

祝詞の中に、社労士の業務の重大さを認識すると共に、中小企業の労務問題等にふれ、参会者の注目を集めていました。

皆様のご協力を得まして、今年度も政連が1歩1歩前進することを祈念してやみません。



政連第2回定期支部大会風景

あ と が き

広報委員長 森 莞 子

木々の緑にも春の訪れを感じるこの頃、会員各位は新年度を迎え、ご多忙のことと存じます。新広報委員での会報もあっという間に1年になりました。次号30号は、63年度の最初の号で、又社会保険労務士法制定20周年の年でもあり、より一層会員への情報の伝達の要として頑張りたいと思っています。ご要望、ご投稿を事務局宛お寄せ下さい。